資治通鑑　第１０８巻

令和 3 年 12 月 22 日

【晉紀三十】　起玄黓執徐，盡柔兆涒灘，凡五年。

■東晋、●北魏、▲後燕、続国訳漢文大成．経子史部 第 6 巻 304p

烈宗孝武皇帝下太元十七年（壬辰，３９２年）

■春，正月，已巳（１日）朔，大赦す。

前秦秦主の**登**は昭儀の隴西の**李氏**を立てて**皇后**と為す。

▲翟魏二月，壬寅（５日），燕主の**垂**は魯口より河間、渤海、平原に如く。**翟釗**（てきしょう）は其の將の**翟都**を遣わして館陶（山東省東臨道館陶県、現・河北省邯鄲市館陶県）を侵さしめ，蘇康壘（同、館陶県、人名に由来）に屯す。三月，**垂**は兵を引いて南に**釗**を撃つ。

前秦 後秦秦の驃騎將軍の**沒弈干**は衆を帥いて後秦に降り，後秦は以て車騎將軍と為し，高平公に封じる。

後秦［姚萇の病で太子興は宿臣を誅殺］後秦主の**萇**は疾に寢ね，**姚碩德**に命じて李潤に鎮ぜしめ，**尹緯**をして長安を守らしめ，太子の**興**を召いて行營（萇は安定にいた）に詣（いた）らしむ。征南將軍の**姚方成**は**興**に言って曰く、

「今寇敵は未だ滅せず(6-305p)，**上**は復た疾に寢る。**王統**等は皆な部曲有り，終に人の患いを為さん，宜しく盡く之を除くべし。」

興は之に從い，**王統**、**王廣**、**苻胤**、**徐成**、**毛盛**を殺す。**萇**は怒りて曰く、

「**王統**の兄弟は，吾之州裡にして，實に他志無し。**徐成**等は皆な前朝の名將にして，吾は方に之を用い，奈何して輒ち之を殺すや！」

【燕は翟魏討伐】

西燕▲翟魏［翟釗は西燕主の永に救援を求める］燕主の**垂**は進みて蘇康壘に逼る。夏，四月，**翟都**は南に滑台に走る。**翟釗**は西燕に救いを求め，西燕主の**永**は群臣に謀り，尚書の渤海の**鮑遵**は曰く、

「兩寇をして相い弊せ使めて，吾は其の後を承ければ，此れ卞莊子之策也。」（春秋時代の魯国の卞邑大夫、《史記張儀列傳》記載・有一次，卞莊子想刺老虎，他的同伴館豎子想到一個妙計、「兩虎為食而爭鬥，鬥的時候大的必傷，小的必亡，然後把受傷的老虎刺死，就可以獲得一舉雙虎之名。」）

中書侍郎の太原の**張騰**は曰く、

「**垂**は強く**釗**は弱し，何の弊をか之れを承けん！速かに之を救い，以て鼎足之勢いを成すに如かず。今我は兵を引いて中山に趨き，晝は疑兵を多くし，夜は火炬を多くすれば，**垂**は必ず懼れて而して自ら救わん。我は其の前を沖（つ）（続は衝）き，**釗**は其の後を躡まん，此れ天授之機なり，失う可からざる也。」

永は從わず。

▲燕は大赦す。（大赦の理由不明、小林惠子は慕容佐、実は好太王安を高句麗に送り込んで属国にした祝賀とする）

■五月，丁卯（１日）朔，日に之れ食有り。

▲［燕主の垂は翟釗討伐、翟魏滅亡］六月，燕主の**垂**は黎陽（河南省河北道浚県、現・鶴壁市浚県の東）に軍す。河に臨みて濟らんと欲し，**翟釗**は兵を南岸に列して以て之を拒む。辛亥（１６日），**垂**は營を徙して西津に就き，黎陽を去ること西四十里，牛皮船百餘艘を為（つく）り，偽りに兵仗を列し，流れを溯りて而して上る。**釗**は 亟（すみやか） に兵を引いて西津に趣き，**垂**は潛かに中壘將軍の桂林の**王鎮**等を遣わして黎陽の津より夜濟り，

河南に營し，明くる比而して營は成る。**釗**は之を聞き，亟に還り，**鎮**等の營を攻める。**垂**は**鎮**等に命じ壁を堅くして戦うこと勿からしむ。**釗**の兵は往來に暍（熱中症）に疲れ，營を攻めて抜く能わず，將に引いて去らんとす。**鎮**等は兵を引いて出でて戦う。驃騎將軍の**農**は西津より濟り，**鎮**等と夾撃し，大いに之を破る。**釗**は走りて滑台に還り，妻子を將いて，遺衆を収め，北に河を濟り，白鹿山（河南省河北道輝県、現・新郷市輝県市）に登り，險に憑りて自ら守り，燕兵は進むを得ず。**農**は曰く、
「**釗**に糧は無く，久しく山中に居る能わず。」
乃ち兵を引いて還り，騎を留めて之を候はしむ。**釗**は果たして山を下る。兵を還して掩撃し，盡く其の衆を獲り，**釗**は單騎にして長子（西燕領、山西省冀寧道長子県、現・山西省長治市壷関県）に奔る。西燕主の**永**は**釗**を以て車騎大將軍、兗州牧と為し，東郡王に封ず。歳餘にして，**釗**は反を謀り，**永**は之を殺す。

▲［燕主は翟魏勢力を多く本領安堵］初め，**郝晷**、**崔逞**及清河の**崔宏**、新興の**張卓**、遼東の**夔騰**、陽平の**路纂**は皆な秦に仕え，秦亂を避けて來奔し，詔して以て冀州の諸郡と為し，各々部曲を將いて河南に營す。既に而して**翟氏**の官爵を受け，**翟氏**は敗れ，皆な燕に降る，燕主の**垂**は各々其の材に隨いて而して之を用いる。**釗**が統べる所の七郡三萬餘戸は，皆な按堵して故の如し。章武王の**宙**を以て兗、豫二州刺史と為し，滑台に鎮ぜしむ。徐州民の七千餘戸（翟釗が掠めた者）を黎陽に徙し，彭城王の**脫**を以て徐州刺史と為し，黎陽に鎮ぜしむ。**脫**は，**垂**之弟の子也。**垂**は**崔廕**を以て**宙**の司馬と為す。

▲[慕容宙の司馬の崔廕の実力]初め，陳留王の**紹**を鎮南將軍と為し，太原王の**楷**を征西將軍と為し，(6-306p) 樂浪王の**溫**を征東將軍と為し，**垂**は皆な**廕**を以て之が佐と為す。**廕**は才幹明敏にして強正なり，善く規諫し，四王は皆な之を嚴に憚る。至る所刑法を簡にし，賦役を輕くし，流民は之に歸し，戸口は滋息（増加蕃息）す。

▲秋，七月，**垂**は鄴に如き，太原王の**楷**を以て冀州牧と為し，右光祿大の**夫餘蔚**を左僕射と為す。（後燕の役人に夫餘姓のあることは、注目すべし）

前秦 後秦［後秦主の萇の疾病を聞き、秦主の登は攻めるも神出鬼没に会う］秦主の**登**は後秦主の**萇**の疾病を聞き，大いに喜び，**世祖**（苻堅）の神主に告祠し，大赦し，百官に位二等を進め，馬に秣かい兵を厲ぎ，進みて安定に逼り，城を去ること九十餘里なり。八月，**萇**の疾は小しく瘳え，出でで之を拒む。**登**は兵を引いて營を出で，將に逆え戦わんとし，**萇**は安南將軍の**姚熙隆**を遣わして別に秦の營を攻めしめ，**登**は懼れて而して還る。**萇**は夜兵を引いて旁出し以て其の後を躡み，旦にして而して候騎に告げて曰く、
「賊の諸營は已に空しく，向う所を識らず。」
登は驚いて曰く、
「彼は何人為るか，去るときは我をして知らざら令め，來るときは我をして覺らざら令む，其の將に死なんと謂うに，忽然と復た來たりて，**朕**と此の羌とは世を同じくす，何ぞ其の厄なる哉！」
登は遂に雍に還り，**萇**も亦た安定に還る。

北涼 西秦三河王の**光**は其の弟の右將軍の**寶**等を遣わして金城王の**乞歸**を攻めしめ，**寶**及び將士の死者は萬餘人。又た其の子の虎賁中郎將の**纂**を遣わして南羌の**彭奚念**を撃たしめ，**纂**も亦た敗れて歸る。**光**は自ら將して**奚念**を枹罕に撃ちて，之に克ち，**奚念**は甘松（385 年に乙伏國仁の置く郡、甘粛省甘南蔵族自治州迭部県東南・舟曲県・四川省若尔盖県東境一帯）に奔る。

■［雍州刺史の朱序の引退］冬，十月，辛亥（１８日），荊州刺史の**王忱**は卒す。雍州刺史の**朱序**（淝水の戦い前後に重要な役割）は老病を以て解職を求め，詔して太子の右衛率の**郗恢**を以て雍州刺史と為し，**序**に代

わりて襄陽に鎮ぜしむ。**恢**は，**曇**（100 巻穆帝升平二年にあり）之子也。

前秦 後秦巴蜀人の關中に在る者は皆な後秦に叛し，弘農に據りて以て秦に附く。秦主の**登**は**竇沖**を以て左丞相と為し，**沖**は徙りて華陰に屯す。**郗恢**は將軍の**趙睦**を遣わして金墉を守らしめ，河南太守の**楊佺期**は衆を帥いて湖城に軍し，**沖**（+衝）を擊ち，之を走らす。

【桓玄の不遇と登場】

■［殷仲堪は荊州刺史、今一歩］十一月，癸酉（１０日），黄門郎の**殷仲堪**を以て都督荊、益、寧三州諸軍事、荊州刺史と為し，江陵（湖北省荊南道江陵県、現・荊州市江陵県）に鎮ぜしむ。**仲堪**は英譽有ると雖も，資望は猶ほ淺く，議者は以て允（適任）と為さず。官に到りて，好みて小惠を行い，綱目は擧がらず。

■［桓溫の子の桓玄は自信満々］南郡公の**桓玄**は其の才地（才能門地）を負（たの）み，雄豪を以て自ら處し，朝廷は疑いて而して用いず。年二十三，始めて**太子**の洗馬を拜す。**玄**は嘗て琅邪王の**道子**に詣り，其の酣醉に値い，（道子は）目を張って衆客に謂って曰く、

「**桓溫**は晩途（晩年）に賊と作らんと欲するは，雲（族は云）何（いかん）？」

玄は地に伏して汗を流して，起つ能わず。是に由りて益々自ら安ぜず，常に**道子**に切齒す。後に出でて義興太守に補せられ，鬱鬱として志を得ず，歎じて曰く、

「父は九州の伯と為り，兒は五湖の長と為る！」

遂に官を棄てて國に歸り，上疏して自ら訟えて曰く、

「先臣の勤王匡復之勳を，朝廷は之を遺（わす）る，(6-307p)臣は復た計らず。**先帝**は龍飛（桓溫が海西公を廢して簡文帝を立て、帝が統を継ぐこと）し，**陛下**が明を繼ぐに至りては，談者に請い問う，誰に之れ由る邪？」

疏は寢かせられて報ぜず。

■［江陵の桓玄は豪横なり、劉邁は逃亡す］**玄**は江陵に在り，**仲堪**は甚だ之を敬い憚る。**桓氏**は累世荊州に臨み，**玄**は復た豪横なり，士民は之を畏れ，**仲堪**を過ぎる。嘗つて**仲堪**の聽事（役所）の前に於いて馬に戲むるに，槊を以てし**仲堪**に擬す。**仲堪**の中兵參軍の彭城の**劉邁**は**玄**に謂って曰く、

「馬槊（続は稍、長さ一丈八尺の長い矛）は餘り有れども，精理（精度）は足らず。」

玄は悦ばず，**仲堪**は之れが為に色を失う。**玄**は出で，**仲堪**は**邁**に謂って曰く、

「卿は，狂人也！**玄**は夜遣わして卿を殺さしむとも，我は豈に能く相い救わん邪？」

邁をして都（建康）に下りて之を避け使む。**玄**は人をして之を追わ使め，**邁**は僅かに而して獲らるるを免かる。

■［豫章の胡籓と仲堪］征虜參軍の豫章の**胡籓**は江陵を過ぎ，**仲堪**を見え，之に說いて曰く、

「**桓玄**の志趣は常ならず，毎に職を失うに怏怏（おうおう）たり，節下は太守を崇待し（続は、崇待すること太だ過ぎる），恐らくは將來之計に非ざらん也！」

仲堪は悦ばず。**籓**の內弟（宋書胡籓伝には外弟とある）の同郡（族は無し）の**羅企生**は**仲堪**の功曹為（た）り，**籓**は退き，**企生**に謂って曰く、

「**殷侯**は戈を倒して以て人に授ける，必ず禍に及ばん。君は早く去就を圖らざれば，後悔しても及ぶ無し矣！」

■庚寅（２７日），皇子の**德文**を立てて琅邪王と為し，琅邪王の**道子**を徙して會稽王と為す。

▲十二月，燕主の**垂**は中山に還り，遼西王の**農**を以て都督兗、豫、荊、徐、雍五州諸軍事と為し，鄴に鎮

ぜしむ。

西秦休官（雑夷の部落名、休氏、休みしし）の**權千成**は顯親（甘粛省渭川道天水県の西北、現・天水市秦安県蓮花鎮東北）に據り，自ら秦州牧と稱す。

■清河人の**李遼**は上表して兗州に敕して孔子廟を修（続は脩）め，戸を給して灑掃せしめ，仍って庠序（学校）を立て，教學者を收めるを請いて，曰く、

「事は賒（シャ、緩む、のびる、ゆとり）かなるが如く而して實に急なる者有り，此之謂い也！」

表は省せ見れず。

烈宗孝武皇帝下太元十八年（癸巳，３９３年）

▲春，正月，燕の陽平孝王の**柔**は卒す。

西秦**權千成**は秦の逼る所と為り，降を金城王の**乾歸**に請い，**乾歸**は以て東秦州刺史、休官大都統、顯親公と為す。

▲［慕容宝の立太子］夏，四月，庚子（９日），燕主の**垂**は太子の**寶**に大單于を加える。安定王の**庫辱官偉**を以て太尉と為し，范陽王の**德**を司徒と為し，太原王の**楷**を司空と為し，陳留王の**紹**を尚書右僕射と為す。五月，子の**熙**（後に皇帝）を立てて河間王と為し，**朗**を渤海王と為し，**鑒**を博陵王と為す。

前秦秦の右丞相の**竇沖**（続は衝）は才を矜り人を尚ぎ，自ら天水王に封ぜられんことを請い，秦主の**登**は許さず。六月，**沖**は自ら秦王を稱し，改元して元光とす。

西秦［乙伏熾磐の立太子］金城王の**乾歸**は其の子の**熾磐**を立てて太子と為す。**熾磐**は勇略明決，其の父を過ぎる。

前秦 後秦［後秦太子の興は秦主登を攻める］秋，七月，秦主の**登**は**竇沖**を野人堡（甘粛省渭川道天水県の西北、現・天水市）を攻める，**沖**は後秦に救いを求める。**尹緯**は後秦主の**萇**に言って曰く、(6-308p)

「**太子**は仁厚き之稱は，遠近に著はれども，而して英略は未だ著われず，請う**苻登**（続による）を擊ちて以て之を著わさ使めん。」

萇は之に從う。太子の**興**は兵を將いて胡空堡を攻め，**登**は**沖**の圍みを解いて以て之に赴く。**興**は因りて平涼（この時期の符登の根拠地）を襲う。大いに獲りて而して歸る。**萇**は**興**をして還りて長安に鎮ぜ使む。

●魏王の**珪**は薛干の**太悉伏**が**劉勃勃**（後の赫連勃勃）を送らざる（前巻 16 年にあり）を以て，八月，其の城を襲い，之を屠り，**太悉伏**は秦に奔る。

■氐帥の**楊佛嵩**は叛し，後秦に奔り，**楊佺期**、**趙睦**は之を追い，九月，丙戌（２８日），**佛嵩**を潼關に敗る。後秦の將の**姚崇**は**佛嵩**を救い，晉兵を敗り，**趙睦**は死す。

後秦冬，十月，後秦主の**萇**は疾甚しく，長安に還る。

【後燕は西燕を討伐】

▲［後燕は西燕の討伐を決意］燕主の**垂**は西燕を伐たんと議し，諸將は皆な曰く、

「**永**は未だ釁有らず，我は連年征討し，士卒は疲弊す，未だ可からず也。」

范陽王の**德**は曰く、

「**永**は既に國之枝葉にして，又た位號を僭擧し，民の視聽を惑わす，宜しく行きて先ず之を除き，以て民心を壹にせんや。士卒は疲れると雖も，庸ぞ已むを得ん乎！」

垂は曰く、
「司徒の意は正に吾と同じくす。吾は老いるに比べども，嚢底の智を叩けば，以て之を取るに足り，終に復た此の賊を留めて以て子孫に累せざる也。」
遂に戒嚴す。
▲［西燕への討伐軍出陣］十一月，**垂**は中山を發すに歩騎七萬，鎮西將軍の丹楊王の**纘**（続に瓚に作るべしと）、龍驤將軍の**張崇**を遣わして井陘を出で，西燕の武郷公の**友**を晉陽に攻めしめ，征東將軍の**平規**をして鎮東將軍の**段平**を沙亭（鄴の西南、直隷省大名道大名県、現・邯鄲市大名県）に攻めしめる。西燕主の**永**は其の尚書令の**刁雲**、車騎將軍の**慕容鐘**を遣わして衆五萬を帥いて潞川を守らしむ。**友**は，**永**之弟也。十二月，**垂**は鄴に至る。

【姚萇の死と苻登の動き】

後秦［姚萇の四つの遺詔と碩徳の決断］己亥（４４日?），後秦主の**萇**は太尉の**姚旻**、僕射の**尹緯**、**姚晃**、將軍の**姚大目**、尚書の**狄伯支**を召いて禁中に入れ，遺詔を受け政を輔けしむ。**萇**は**太子**の**興**に謂って曰く、
「此の諸公を毀（そし）る者有れば，慎しみて之を受ける勿かれ。汝は骨肉を撫するに恩を以てし，大臣に接するには禮を以てし，物を待するには信を以てし，民に遇えば仁を以てすべし，四つの者を失わざれば，吾は憂い無し矣。」
姚晃は涕を垂れて**苻登**を取る之策を問い，**萇**は曰く、
「今大業は成るに蜿々（なんなん）とし，**興**の才智は辦ずるに足る，奚（いずく）んぞ復た問う所あらんや！」
庚子（４４日?），**萇**は卒す（年64）。**興**は秘して喪を發せず，其の叔父の**緒**を以て安定に鎮ぜしめ，**碩徳**をして陰密に鎮ぜしめ，弟の**崇**をして長安を守らしむ。或は**碩徳**（もと兵を隴城に起し、冀城に據る）に謂って曰く、
「公の威名は素より重く，部曲は最強なり，今は易世（代替わり）之際，必ず朝廷の疑う所と為らん，且（しばら）くは秦州に奔りて，事勢を觀望するに如かず。」
碩徳は曰く、
「**太子**の志度は寛明なり，必ず它慮は無からん。今**苻登**は未だ滅せず而して骨肉相い攻めれば，是れ自ら亡ぼす也。吾は死する有り而して已む，終に為さざる也。」
遂に往きて**興**に見みえ，**興**は優禮して而して之を遣る。(6-309P)**興**は自ら是を大將軍と稱し，**尹緯**を以て長史と為し，**狄伯支**を司馬と為し，衆を帥いて秦を伐つ。

烈宗孝武皇帝下太元十九年（甲午，３９４年）

前秦 西秦春，正月，秦主の**登**は後秦主の**萇**が卒すと聞き，喜んで曰く、
「**姚興**は小兒なり，吾は折杖で之を笞うたん耳。」
乃ち大赦し，衆を盡くして而して東し，司徒の安成王の**廣**を留めて雍（陝西省中部から甘粛省中部）を守らしめ，太子の**崇**をして胡空堡を守らしむ。遣使して金城王の**乾歸**を拜して左丞相、河南王と為し，秦、梁、益、涼、沙五州の牧を領せしめ，九錫を加える。
後涼［禿髪烏孤立つ］初め，**禿髪思復鞬**（とくはつ）は卒し，子の**烏孤**（397年南涼を立てる）は立つ。**烏孤**は雄勇にして大志有り，大將の**紛陀**と涼州（後涼の呂光）を取らんと謀る。**紛陀**は曰く、

「公は必ず涼州を得んと欲すれば，宜しく先ず農を務め武を講じ，俊賢を禮し，政刑を修め，然る後にす可き也。」

烏孤は之に従う。三河王の**光**は遣使して**烏孤**を拝して冠軍大将軍、河西鮮卑大都統とす。**烏孤**は其の群下と之を謀りて曰く、

「受ける可き乎？」

皆な曰く、

「吾は士馬衆は多く，何ぞ人に屬すると為さん？」

石真若留は對えず，**烏孤**は曰く、

「卿は**呂光**を畏れる邪？」

石真若留は曰く、

「吾は本より根は未だ固まらず，小大は敵（匹敵）に非ず，若し**光**が我に死を致さば，何を以て之を待つや？受けて，以て之を驕らし，釁を俟って而して動くに如かず，克たざるを蔑すまん矣。」

烏孤は乃ち之を受ける。

前秦二月，秦主の**登**は屠各（休屠，匈奴部落名）の姚奴、帛蒲の二堡（胡空堡の東）を攻め，之に克つ。

【前秦・西燕は壊滅的打撃を被る】

▲［後燕の西燕討伐出発］燕主の**垂**は清河公の**會**を留めて鄴に鎮ぜしめ，司、冀、青、兗の兵を發して，太原王の**楷**を遣わして滏口に出でしめ，遼西王の**農**をして壺關に出でしめ，**垂**は自ら沙庭（続は沙亭に作るべしと、鄴の西南）に出で，以て西燕を撃ち，趣く所を標榜し，軍は各々頓に就く。西燕主の**永**は之を聞き，兵を嚴にして分道して拒み守り，糧を台壁（続は臺壁、山西省冀寧道潞城県、現・長治市潞城区、潞川の近く）に聚め，従子の征東將軍の**小逸豆歸**、鎮東將軍の**王次多**、右將軍の**勒馬駒**を遣わして衆萬餘人を帥いて之に戍せしむ。

前秦 後秦［前秦の登は破れ、単騎平涼に奔る］夏，四月，秦主の**登**は六陌（陝西省關中道乾県、現・咸陽市乾県）より廢橋に趣き，後秦の始平太守の**姚詳**は馬嵬堡に據りて以て之を拒む。**太子**の**興**は**尹緯**を遣わして兵を將いて**詳**を救わしめ，**緯**は廢橋に據りて以て秦を待つ。秦兵は水を爭い，得る能わず，渇死する者は什に二、三，因りて急に**緯**を攻める。**興**は狄伯支（続は無し）を馳せ遣わして**緯**に謂わしめて曰く、

「**苻登**は窮寇す，宜しく持重して以て之を挫かん。」

緯は曰く、

「**先帝**は登遐（崩御）し，人情は擾懼す，今奮わんと思う之力に因りて以て敵を禽にせずんば，大事は去る矣！」

遂に秦と戰い，秦兵は大敗す。其の夜，秦の衆は潰え，**登**は單騎にして雍に奔る。**太子**の**崇**及び安成王の**廣**は敗れるを聞き，皆な城を棄てて走る。**登**は至り，(6-310p) 歸る所無く，乃ち平涼（甘粛省涇原道平涼県、現・平涼市崆峒区）に奔り，遺衆を收集し，馬毛山（甘粛省涇原道平涼県府内の堅、現・平涼市崆峒区）に入る。

▲西燕 後燕［後燕は西燕を破り晉陽を取る］燕主の**垂**は軍を鄴の西南に頓し，月餘にして進まず。西燕主の**永**は之を怪しみ，以為えらく太行の道は寬なり，**垂**の詭道をもって之を取らんと欲すを疑い，乃ち悉く諸軍を斂め軹關に屯し，太行の口を杜ぎ，惟だ台壁の一軍を留める。甲戌（２０日），**垂**は大軍を引いて滏口を出で，天井關（山西省冀寧道鳳臺県、現・晋城市）に入る。五月，乙酉（１日），燕軍は台壁に至り，**永**は従兄の太尉の**大逸豆歸**を遣わして之を救わしめ，**平規**は撃ちて之を破る。**小逸豆歸**は出でて戰い，遼西

王の**農**は又た撃ちて之を破り，**勒馬駒**を斬り，**王次多**を禽にし，遂に台壁を圍む。**永**は太行の軍を召して還らしめ，自ら精兵五萬を將して以て之を拒む。**刁雲**、**慕容鐘**は震え怖れ，衆を帥いて燕に降り，**永**は其の妻子を誅す。己亥（１５日），**垂**は台壁の南に陳じ，驍騎將軍の**慕容國**を遣わして千騎を澗下に伏せしむ。庚子（１６日），**永**と合戦し，**垂**は偽りて退き，**永**の衆は之を追うこと，數里行きて，**國**の騎は澗中より出で，其の後を斷ち，諸軍は四面より俱に進み，大いに之を破り，斬首八千餘級，**永**は走りて長子に歸る。晉陽の守將は之を聞き，城を棄てて走る。丹楊王の**璯**等は進みて晉陽を取る。

後秦［後秦の太子興の即位］後秦の太子の**興**（続による、字は子略、姚萇の長子）は先ず始めて喪を發し，槐里（陝西省關中道興平県の東南、現・咸陽市興平市）にて**皇帝**に即位し，大赦し，改元して皇初とし，遂に安定に如く。後秦主の**萇**を謚して**武昭皇帝**と曰し，廟號を**太祖**とす。

■［會稽王の太妃鄭氏を追尊して簡文宣太后］六月，壬子（５９日?），會稽王の太妃の**鄭氏**を追尊して**簡文宣太后**と曰う。群臣は**宣太后**は應に**元帝**に配食すべしと謂うも，**太子**の前率の**徐邈**は曰く、

「**宣太后**は平素（存命中）之時，先帝に伉儷（夫婦）ならず。子孫に至り，豈に祖考の為に配を立てる可けんや！」

國學明教（宋書に臧燾伝には助教）の東莞の**臧燾**は曰く、

「今尊號は既に正し，則ち罔極之情（亡き母親を思う情）を申べる。別に寢廟を建てるは，則ち嚴禰之義（父の廟を尊ぶの義）は顯らかなり。子を系けて稱と為す（簡文を宣太后の上に懸ける）は，兼ねて貴き之由る所を明らかにするなり。一舉に而して三義に允たり，亦た善しからず乎？」

乃ち廟を太廟の路西に立てる。

▲西燕［燕主の垂が囲むも西燕は籠城作戦］燕主の**垂**は進軍して長子（山西省冀寧道長子県、現・長治市長子県）を圍む。西燕主の**永**は後秦に奔らんと欲し，侍中の**蘭英**は曰く、

「昔**石虎**は龍都を伐つや（96 巻晉成帝咸康四年にあり），**太祖**（慕容皝）は堅守して去らず，卒に大燕之基に成る。今**垂**は七十の老翁，兵革を厭苦し，終に兵を頓して連歳以て我を攻める能わざる也。但だ當に城守して以て之を疲れさせん。」

永は之に從う。

【苻登は戦死、太子崇は湟中に立つ】

前秦 後秦 西秦［秦主登は西秦の援軍を受けるも、後秦に討たれる］秦主の**登**は**其**の子の汝陰王の**宗**を遣わして河南王の**乾歸**の質と為して以て救いを請い，**乾歸**を梁王に進め封じ，其の妹を納れて梁の王后と為す。(6-311p)**乾歸**は前軍將軍の**乞伏益州**等を遣わして騎一萬を帥いて之を救わしむ。秋，七月，**登**は兵を引いて出でて**乾歸**の兵を迎える。後秦主の**興**は安定より涇陽に如き，**登**と山南（馬毛山の南）にて戰い，**登**（年 52）を執り，之を殺す。悉く其の部衆を散じ，農業に歸せ使め，陰密の三萬戸を長安に徙し，**李后**を以て**姚晃**に賜る。**益州**等は之を聞き，兵を引いて還る。秦の**太子**の**崇**は湟中（現・青海省西寧市湟中区）に奔り，**帝**に即位し，改元して延初とす。**登**を謚して**高皇帝**と曰い，廟號を**太宗**とす。

後秦［後秦の後継者を巡る内乱］後秦の安南將軍の**強熙**、鎮遠將軍の**楊多**は叛き，**竇沖**を推して主と為す。後秦主の**興**は自ら將して之を討ち，軍は武功に至り，**多**の兄の子の**良國**は**多**を殺して而して降り，**熙**は秦州に奔り，**衝**は汧川（陝西省關中道隴県、現・宝鶏市隴県）に奔り，汧川の氐の**仇高**は執りて之を送る。

後涼三河王の**光**は子の**覆**を以て都督玉門以西諸軍事、西域大都護と為し，高昌に鎮ぜしめ，命じて大臣

の子弟を之に隨わしむ。
■八月，己巳（１６日），皇太妃の**李氏**を尊んで**皇太后**と為し，崇訓宮に居らしむ。

【西燕滅亡・前秦滅亡】

■●▲西燕［困窮した西燕主は晋・魏に救いを求めるも斬首］西燕主の**永**は困急し，其の子の常山公の**弘**等を遣わして（晋の）雍州刺史の**郗恢**（ちくわい）に救いを求めしめ，並びに玉璽一紐を獻じる。**恢**は上言す、
「**垂**が若し**永**を並（あ）わせば，患と為ること益々深く，之を兩存するには如かず，以て機に乗じて雙つながら斃す可し。」
（晋の）**帝**は以為えらく然りと，青、兗二州刺史の**王恭**、豫州刺史の**庾楷**に詔して之を救わしむ。**楷**は，**亮**之孫也。**永**は晉兵の出でざるを恐れ，又た其の**太子**の**亮**を遣わして（続、來たりて）質と為す。**平規**は**亮**を追い，高都（山西省冀寧道鳳臺県、現・晋城市）に及び，之を獲る。**永**は又た急を魏に告げ，魏王の**珪**は陳留の**公虔**、將軍の**庾岳**を遣わして騎五萬を帥いて東に河を渡り，秀容（北秀容なり、山西省雁門道朔県の西北、現・朔州市朔城区?）に屯し，以て之を救わしむ。**虔**は，**紇根**（104 巻元年にあり）之子也。晉、魏の兵は皆な未だ至らず，**大逸豆歸**の部將の**伐勤**等は開門して燕の兵を內にし，燕人は**永**を執り，之を斬り，並びに其の公卿大將の**刁雲**、**大逸豆歸**等三十餘人を斬り，**永**の統べる所の八郡七萬餘戶び及秦の乘輿、服御、伎樂、珍寶を得ること甚だ衆（おお）し。燕主の**垂**は丹楊王の**瓚**を以て并州刺史と為し，晉陽に鎮ぜしむ。宜都王の**鳳**は雍州刺史と為し，長子に鎮ぜしむ。**永**の尚書僕射の昌黎の**屈遵**、尚書の陽平の**王德**、秘書監の中山の**李先**、太子詹事の渤海の**封則**、黃門郎の太山の**胡母亮**、中書郎の**張騰**、尚書郎の燕郡の**公孫表**は皆な才に隨いて擢敘せられる。
▲九月，**垂**は長子より鄴に如く。
前秦 西秦［前秦主の崇は楊定を頼り、西秦は滅亡させる］冬，十月，秦主の**崇**は梁王の**乾歸**の逐う所と為り，隴西王の**楊定**に奔る。**定**は司馬の**邵強**を留めて秦州を守らしめ，衆二萬を帥いて**崇**と共に**乾歸**を攻め，**乾歸**は涼州牧の**軻彈**、秦州牧の**益州**、立義將軍の**詰歸**を遣わして騎三萬を帥いて之を拒ましむ。**益州**は**定**と戰い，平州（載記には平川につくる、甘肅省西寧道伯県、現・青海省海東市樂都区）に敗る。**軻彈**、**詰歸**は皆な引いて退き，**軻彈**の司馬の翟□（王偏に温のﾐ無し）は劍を奮いて怒りて曰く、
「**主上**は雄武を以て開基し，向かう所敵無く，威は秦、蜀に振るう。將軍は宗室を以て元帥之任に居り，當に力を竭くして命を致し以て國家を佐（たす）けるべし。今秦州は敗れると雖も，二軍は尚ほ全くし，奈何（いかん）ぞ風を望みて退衂（たいじく）せんや，將に何の面ありてか以て主上に見えんや乎？□（+王偏に温のﾐ無し）は任無しと雖も(6-312p)，獨り便宜を以て將軍を斬る能わざらん乎？」
軻彈は謝して曰く、
「尚に者（さきに）未だ衆心の何如かを知らざる耳。果たして能く是くの如くならば，吾は敢えて死を愛しまんや？」
乃ち騎を帥いて進みて戰い，**益州**、**詰歸**は亦た兵を勒して之に繼ぎ，大いに**定**の兵を敗り，**定**及び**崇**を殺し（前秦は６主４２年にて滅亡），斬首は萬七千級。**乾歸**は是に於いて盡く隴西之地（初めて秦州を得る）を有す。
■前秦［楊盛は東晋に称藩］**定**は子無く，其の叔父の**佛狗**之子の**盛**は，先に仇池を守り，自ら征西將軍、秦州刺史、仇池公と稱し，**定**を謚して**武王**と為し，仍ち遣使して來たりて稱籓す。秦の太子の**宣**は**盛**に奔り，**盛**は氐、羌を分けて二十部と為し護軍，各々鎮戍を為し，郡縣を置かず。

【後燕は青州兗州を略地】

▲［後燕は慕容農に命じて東海まで到達］燕主の**垂**は陽平、平原を東巡し，遼西王の**農**に命じて河を濟

り，安南將軍の**尹國**と青、兗を略地せしむ。**農**は廩丘（山東省濟寧道嶧県、現・棗莊市嶧城区）を攻め，**國**は陽城を攻め，皆な之を抜く。東平（山東省東臨道東平県、現・泰安市東平県）太守の**韋簡**は戦死し，高平（現・菏沢市単県）、太山、琅邪（山東省琅邪郡瑯琊県、現・青島市黄島区）の諸郡は皆な城を委てて奔潰し，**農**は軍を進めて海（東シナ海）に臨み，遍く守宰を置く。

●［柔然の曷多汗、社侖、疋候跋］柔然（魏に降ること前巻 16 年にあり）の**曷多汗**は其の父を棄て，**社侖**と與に衆を帥いて西に走る。魏の**長孫肥**は之を追い，上郡の跋那山（陝西省榆林道綏徳県、現・榆林市綏徳県）に及び，**曷多汗**を斬る。**社侖**は其の餘衆の數百を收め，**疋候跋**に奔り，**疋候跋**は之れを南鄙に處す。**社侖**は**疋候跋**を襲い，之を殺す。**疋候跋**の子の**啟跋**、**吳頡**等は皆な魏に奔る。**社侖**は五原以西の諸部を掠し，走りて漠北を度る。

▲十一月，燕の遼西王の**農**は**辟閭渾**を龍水（山東省膠東道益都県、現・濰坊市青州市）に敗り，遂に臨淄（山東省膠東道臨朐県、現・濰坊市臨朐県）に入る。十二月，燕主の**垂**は**農**等を召し還らしむ。

後秦 ▲［後秦と後燕の修好］秦主の**興**は遣使して燕と好みを結び，並びて**太子**の**寶**之子の**敏**を燕に送り，燕は**敏**を封じて河東公と為す。

西秦梁王の**乾歸**は自ら秦王と稱し，大赦す。

烈宗孝武皇帝下太元二十年（乙未，３９５年）

▲［慕容垂の巡狩］春，正月，燕主の**垂**は散騎常侍の**封則**を遣わして秦に報聘す。遂に平原（西晋の平原国は冀州に属し、平原・高唐・茌平・博平・聊城・安徳・西平昌・般・鬲の９県）より廣川（慕容垂が廣川郡を置き後廃止、棗強縣東三十里）、勃海、長樂（西晋の長楽郡は信都・下博・武邑・武遂・観津・扶柳・広宗・経の８県）に狩りして而して歸る。

西秦西秦王の**乾歸**は太子の**熾磐**を以て尚書令を領せしめ，左長史の**邊芮**を左僕射と為し，右長史の**秘宜**を右僕射と為し，官を置きて皆な魏武、晉文の故事の如し，然るに猶ほ大單于、大將軍と稱す。**邊芮**等が府佐を領するは故の如し。

夏の前身薛干の**太悉伏**（18 年勃勃を匿って秦に逃げていた）は長安より亡げて嶺北に歸り，上郡以西の鮮卑雜胡は皆な之に應ず。

【帝は會稽王の道子の専権を容認】

■二月，甲寅（４日），尚書令の**陸納**は卒す。

■三月，庚辰（１日）朔，日之を食する有り。(6-313p)

■**皇太子**は出でて東宮に就き，丹楊尹の**王雅**を以て少傅を領ぜしむ。

■［會稽王道子一派と帝側近の競合］時に會稽王の**道子**は權を專らにして奢縱なり，嬖人の**趙牙**は本より倡優（道化師）の出で，**茹千秋**は本より錢唐（浙江省錢唐道餘杭県、現・杭州市余杭区・西湖区・江干区）の捕賊吏にして，皆な諂賂（へつらいまいない）を以て進むを得る。**道子**は**牙**を以て魏郡太守と為し，**千秋**を驃騎咨議參軍と為す。**牙**は**道子**の為に東第を開き，山を築き池を穿ち，功用は巨（続は鉅）萬なり。**帝**は嘗て其の第に幸して，**道子**に謂って曰く、

「府内に乃ち山有るは，甚だ善し。然るに修飾は太いに過ぎるなり。」

道子は以て對える無し。**帝**は去り，**道子**は**牙**に謂って曰く、

「**上**が若し山は是れ人力の為す所と知れば，爾は必ず死せん矣！」

牙は曰く、
「公在り，**牙**は何ぞ敢えて死せんや！」
營作するに彌々(いよいよ)甚し。**千秋**は官を賣りて權を招き，貨を聚めること億に累す。博平（平原郡に属す、江左・魏郡に属し都と皆僑置す）令の吳興の**聞人奭**(ぶんじんせき)は上疏して之を言い，**帝**は益々**道子**を惡む，而るに**太后**に逼られ，廢黜するに忍びず，乃ち時望及び親幸する所の**王恭**、**卻恢**、**殷仲堪**、**王珣**、**王雅**等を擢し，內外の要任に居ら使め以て**道子**を防ぐ。**道子**も亦た**王國寶**（続による）及び**國寶**の從弟の琅邪內史の**緒**を引き，以て心腹と為す。是に由りて朋黨は競い起り，復た向(さき)（続は暠）時の友愛之歡無し矣。**太后**は每に之を和解す。中書侍郎の**徐邈**は從容として**帝**に謂って曰く、
「**漢文**は明主なり，猶ほ淮南（巻 14 漢文帝）を悔いる。**世祖**は聰達なれども，**齊王**（81 巻武帝太康四年にあり）に負い愧いる。兄弟之際は，實に深慎と為す。**會稽王**は酣媟之累(わずらい)有りと雖も，宜しく弘貸（度量寛大に過失を許す）を加え，群議を消散し，外は國家之計を為し，內は**太后**之心を。慰めるべし」
帝は之を納れる，復た**道子**に委任すること故の如し。

西秦［乞伏益州は驕りて姜乳に敗れる］初め，**楊定**之死する也，天水の**姜乳**は襲いて上邽（甘肅省渭川道天水県、現・天水市秦州区、清水県）に據る。**夏，四月**，西秦王の**乾歸**は**乞伏益州**を遣わして騎六千を帥いて之を討たしむ。左僕射の**邊芮**、民部尚書の**王松壽**は曰く、
「**益州**は屢々勝ちて而して驕り，任を專らにす可からず。必ず敵を輕んじるを以て敗れを取るべし。」
乾歸は曰く、
「**益州**は驍勇にして，諸將は及ぶ莫し，當に重佐を以て之を輔ける耳。」
乃ち平北將軍の**韋虔**を以て長史と為し，左禁將軍の**務和**を司馬と為す。大寒嶺（上邽の西、甘肅省渭川道天水県）に至り，**益州**は部伍を設けず，將士の游畋縱飲するを聽(ゆる)し，令して曰く、
「敢えて軍事を言う者は斬！」
虔等は諫めるも聽かず，**乳**は逆え擊ちて，大いに之を破る。

【北魏は後燕侵略を開始】

●▲［魏が燕を侵し、燕は総動員で反撃］魏王の**珪**は燕に叛き，附塞の諸部に侵し逼る。**五月**，甲戌（２６日），燕主の**垂**は太子の**寶**、遼西王の**農**、趙王の**麟**を遣わして衆八萬を帥いて，五原より魏を伐たしめ，范陽王の**德**、陳留王の**紹**は別に步騎萬八千を將いて後繼と為さしむ。散騎常侍の**高湖**（高句麗系か）は諫めて曰く、
「魏と燕とは世々昏姻を為し（代王什翼犍は再び慕容を娶り、皆早く卒す。哀帝の隆和元年に什翼犍は娘を燕に納れ、燕もまた娘をこれに娶す），彼に內難（106 巻 11 年・107 巻 12 年にあり）有れば，燕は**實**に之を存し，其の德を施すこと厚く矣，好を結て久し矣。この間馬を求めて獲ざる（前巻 16 年にあり）を以て而して其の弟を留めるは，曲は我に在り，(6-314p)奈何して遽(にわか)に兵を興こして之を擊つや！**拓跋涉圭**（続による、涉珪に作るが涉圭、珪の字）は沉（続は沈）勇にして謀有り，幼なきときには艱難を歷て，兵に精(くわ)しく馬は強く，未だ輕んじ易からざる也。**皇太子**は春秋に富み，志は果に氣銳なり，今之に委ねて專ら征（続は任）せば，必ず魏を小として而して之を易しとし，萬一にも欲する所に如かずんば，威を傷つけ重きを毀さん，願はくは**陛下**は深く之を圖るべし！」
言は頗る激しく切る。**垂**は怒り，**湖**の官を免ず。**湖**は，**泰**（前燕では慕容垂は車騎将軍となり、泰はその従事中郎）之

子也。
▲六月，癸丑（５日），燕の太原の元王の**楷**は卒す。
西秦西秦王の**乾歸**は西城（苑川）に遷る。
後涼［西秦王の乾歸は北涼の呂光に称藩するを悔いる］秋，七月，三河王の**光**は衆十萬を帥いて西秦を伐ち，西秦の左輔の**密貴周**、左衛將軍の**莫者殺羝**は西秦王の**乾歸**に**光**に稱藩するを勸めて，子の**敕勃**を以て質と為さしむ。**光**は兵を引いて還り，**乾歸**は之を悔い，**周**及び**殺羝**を殺す。
●［魏は燕に油断させる策］魏の**張兗**は燕軍の將に至るを聞き，魏王の**珪**に言って曰く、
「燕は滑台、長子之捷ち（西燕を滅ぼす戦い）に狃れ，國之資力を竭くして以て來たる。我を輕んじる之心有り。宜しく羸（弱い）形以て之を驕らすべし，乃ち克つ可からん也。」
珪は之に從い，悉く部落畜産を徙して西に河を渡りて千餘里にし以て之を避く。燕軍は五原に至り，魏の別部三萬餘家を降し，穇田（黒黍の田）百餘萬斛を收め，黑城（五原の河北）を置き，進軍して河に臨み，船を造り濟具を為る。**珪**は右司馬の**許謙**を遣わして秦に師を乞う。
西涼［禿髪烏孤は廉川堡を都とする］禿髪の**烏孤**は乙弗、折掘等諸部を擊ち，皆な破りて之を降し，廉川堡を築きて而して之を都とす。廣武の**趙振**は，少くして奇略を好み，**烏孤**の廉川（湟中にあり、甘肅省西寧道碾伯県、現・海東市樂都区）に在るを聞き，家を棄てて之に從う。**烏孤**は喜んで曰く、
「吾は**趙生**を得たり，大事は濟らん矣！」
左司馬に拜す。三河王の**光**は**烏孤**を封じて廣武郡公と為す。
■［帚星現る］長星有りて見られ須女（揚州の分）より，哭星（虔・危に二宿は死喪哭泣を主る）に至る。**帝**の心は之を惡み，華林園に於いて酒を擧げて之を祝いて曰く、
「長星は，汝に一杯の酒を勸める。古より何ぞ萬歲の**天子**有らん邪！」（ハレー彗星は 375 年、451 年）

【參合陂の戰い、慕容寶大敗】

●［燕軍渡河は暴風に阻まれる］八月，魏王の**珪**は兵を河南に治める。九月，進軍して河に臨む。燕の太子の**寶**は兵を列して將に濟らんとするも，暴風起こり，其の船數十艘は漂いて南岸に泊（続、泊×）す。魏は其の甲士三百餘人を獲り，皆な釋して而して之を遣る。
▲［魏は慕容垂の病気を察知して利用］**寶**之中山を發する也，燕主の**垂**は已に疾有り，既にして五原に至り，**珪**は人をして中山之路に邀え使め，其の使者を伺い，盡く之を執り，**寶**等は數か月**垂**の起居を聞かず，**珪**は執る所の使者をして河に臨みて之を告げ使めて曰く、
「若し（続はなんじの意味とする）父已に死せば，何の早く歸らざるや！」
寶等は憂え恐れ，士卒は駭動す。
●［北魏は包囲し万全の迎撃態勢、慕容宝は軽視］**珪**は陳留公の**虔**をして五萬騎を將して河東に屯ぜ使め，東平公の**儀**をして十萬騎を將して河北に屯ぜしめ，略陽公の**遵**をして七萬騎を將して燕軍之南を塞がしむ。**遵**は，**壽烏**（104 巻元年にあり）之子也。(6-315p)秦の**興**は**楊佛嵩**を遣わして兵を將いて魏を救わしむ。燕の術士の**靳安**は太子の**寶**に言って曰く、
「天の時は不利，燕は必ず大敗す，速かに去りて免かる可し。」
寶は聽かず。**安**は退き，人に告げて曰く、
「吾が輩は皆な當に屍を草野に棄て，歸るを得ず矣！」
●▲［燕軍は動揺し内乱、斥候出さず撤退して暴風］燕、魏は相い持ちて旬を積み，趙王の**麟**の將の**慕輿**

嵩等は**垂**を以て實に死せりと為し，亂を作り，**麟**を奉じて主と為さんと謀る。事は洩れ，**嵩**等は皆な死し，**寶**、**麟**等は內に自ら疑い，冬，十月，辛未（２５日），船を燒いて夜遁げる。時に河冰は未だ結ばず，**寶**は魏兵を以て必ず渡る能わずと，斥候を設けず。十一月，己卯（４日），暴風にして，冰は合す。魏王の**珪**は兵を引いて河を濟り，輜重を留め，精銳二萬餘騎を選びて急に之を追う。

▲［燕軍は參合陂に宿営し油断す］燕軍は參合陂（現・ウランチャブ市涼城県）に至り，大風有り，黑氣は堤の如く，軍の後より來たり，軍上に臨み覆う。沙門の**支曇猛**は**寶**に言って曰く、

「風氣は暴迅なり，魏兵の將に之に至らんとする候（兆候）なり，宜しく兵を遣わして之を御（続は禦）ぐべし。」

寶は魏軍を去るに已に遠きを以て，笑いて而して應えず。**曇猛**は固く請いて已まず，**麟**は怒りて曰く、

「**殿下**の神武を以て，師徒之盛んにして，以て沙漠を橫行するに足らん，索虜は何の敢えて遠く來たるや！而して**曇猛**の妄言は衆を驚かす，當に斬りて以て徇うべし！」

曇猛は泣いて曰く、

「**苻氏**は百萬之師を以て，淮南に敗れ（淝水の戦い、104 巻七年 105 巻八年に見える），正に衆を恃んで敵を輕んじ，天道を信ぜざる由しの故也！」

司徒の**德**は**寶**に勸めて**曇猛**の言に從わしめ，**寶**は乃ち**麟**を遣わして騎三萬を帥いて軍の後に居らしめて以て非常に備える。**麟**は**曇猛**を以て赤（続は為）妄とし，騎を縱ちて遊獵し，肯えて備えを設けず。**寶**は騎を遣わして還りて魏兵を伺わしめ，騎は行（続による、和×）くこと十餘里，即ち鞍を解きて寢ぬ。

●[魏軍は參合陂の奇襲大成功]魏軍は晨夜兼行して，乙酉（１０日），暮，參合陂の西に至り。燕軍は陂の東に在り，蟠羊山（続は山西省雁門道陽高県とするが、ここに水は無し。ウランチャブ市涼城県には湖水があり、參合路の名前も残る、北緯 40° 31’ 40.15″、東経 112° 30’ 33.49″）の南の水上に營す。魏王の**珪**は夜諸將を部分し，燕軍を掩覆し，士卒は枚を銜み馬口を束ね潛かに進む。丙戌（１１日），日出で，魏軍は山に登り，下に燕の營を臨む。燕軍は將に東に引かんとし，顧みて之を見，士卒は大いに驚いて擾亂す。**珪**は兵を縱ちて之を擊ち，燕の兵は走りて水に赴き，人馬は相い騰りて，躡壓し溺死者は以て萬數。略陽公の**遵**は兵を以て其の前を邀え，燕の兵は四五萬人，一時に仗を放ちて手を斂めて禽に就き，其の遺逝して去る者は數千人に過ぎず，太子の**寶**等は皆な單騎にて僅かに免る。燕の右僕射（続による）の陳留の悼王の**紹**を殺し，魯陽王の**倭奴**（倭国出身か）、桂林王の**道成**、濟陰公の**尹國**等文武將吏數千人を生け禽りにし，兵甲糧貨は以て巨萬を計る。**道成**は，**垂**之弟の子也。

●［魏王の珪は兵の送還を欲すも、結局坑す］魏王の**珪**は燕臣之才用有る者の代郡太守の廣川の**賈閏**、**閏**の從弟の驃騎長史の昌黎太守の**彝**、太史郎の遼東の**晁崇**等を擇びて之を留め，其の餘は悉く衣糧を給して遣り還し，以て中州之人を招懷せんと欲す。中部の大人の**王建**は曰く、

「燕衆は強盛なり，今國を傾けて而して來たり，我は幸いにも而して大捷す，悉く之を殺すに如かず，則ち其の國を空虛にして，之を取るは易しと為す。且つ寇を獲て而して之を縱つは，乃ち不可なる無からん乎！」

乃ち盡く之を坑（生き埋め）す。十二月，**珪**は雲中の盛樂（綏遠和林格爾県、現・フフホト市ホリンゴル県）に還る。

▲［燕は翌年の大反撃の体制を築く］燕の太子の**寶**は參合之敗を恥じ，更に魏を擊つを請う。(6-316p)

司徒の**德**は燕主の**垂**に言って曰く、

「虜は參合之捷を以て，**太子**を輕んじる之心有り，宜しく**陛下**の神略に及び以て之を服すべし，然らずんば，將に後の患いと為らん。」

垂は乃ち清河公の**會**を以て留台の事を錄し，幽州刺史を領し，高陽王の**隆**に代わりて龍城に鎮ぜしむ。陽城王の**蘭汗**を以て北中郎將と為し，長樂公の**盛**に代わりて薊に鎮ぜしむ。命じて**隆**、**盛**は悉く其の精兵を引いて中山に還らしめ，期するに明年を以て大舉して魏を擊たんとす。

後秦是の歲，秦主の**興**は其の叔父の**緒**を封じて晉王と為し，**碩德**を隴西王と為し，弟の**崇**を齊公と為し，**顯**を常山公と為す。

烈宗孝武皇帝下太元二十一年（丙申，３９６年）

▲春，正月，燕の高陽王の**隆**は龍城之甲を引いて中山に入り，軍容は精整，燕人之氣は稍々(やや)振るう。

西秦休官の**權萬世**は衆を帥いて西秦に降る。

▲［燕の平規の反乱を垂みずから鎮圧］燕主の**垂**は征東將軍の**平規**を遣わして兵を冀州に發せ使む。二月，**規**は博陵、武邑、長樂の三郡の兵を以て魯口に反し，其の從子の冀州刺史の**喜**は諫めるも，聽かず。**規**の弟の海陽（郡、直隸省津海道灤県、現・唐山市灤州市）令の**翰**は亦た兵を遼西に於いて起こし以て之に應ず。**垂**は鎮東將軍の**餘嵩**（餘姓は扶余か百済）を遣わして**規**を擊たしめ，**嵩**は敗死す。**垂**は自ら將して**規**を擊ち，軍は（續は無し）魯口に至り，**規**は衆を棄て，妻子及び**平喜**等數十人を將いて走りて河を渡り，**垂**は兵を引いて還る。**翰**は兵を引いて龍城に趣き，清河公の**會**は東陽公の**根**等を遣わして**翰**を擊ち，之を破り，**翰**は山南（白浪徐無等の山の南）に走る。

▲［燕主の垂は平城急襲成功］三月，庚子（２６日），燕主の**垂**は范陽王の**德**を留めて中山を守らしめ，兵を引いて密かに發す。青嶺（直隸省易県と山西省の境の山）を逾え，天門を經て，山を鑿ち道を通じ，魏の不意に出て，直ちに雲中を指す。魏の陳留公の**虔**は部落三萬餘家を帥いて平城（山西省雁門道大同県の東、現・大同市）に鎮す。**垂**は獵嶺（山西省代県、夏屋山の東北、魏の平城の狩り場）に至り，遼西王の**農**、高陽王の**隆**を以て前鋒と為して以て之を襲う。是の時，燕兵は新たに敗れ，皆な魏を畏れ，惟だ龍城の兵は勇鋭にして先を爭う。**虔**は素より備えを設けず，閏月（元嘉暦では４月），乙卯（１２日），燕軍は平城に至り，**虔**は乃ち之を覺り，麾下を帥いて出でて戰い，敗死し，燕軍は盡く其の部落を收める。魏王の**珪**は震え怖れ，走らんと欲し，諸部は**虔**の死を聞き，皆な貳心有り，**珪**は適(ゆ)く所を知らず。

▲［慕容垂は參合陂で吐血し発病］**垂**之參合陂を過ぎる也，（死）骸を積んで山の如きを見，之が為に祭りを設け，軍士は皆な慟哭し，聲は山谷を震わす。**垂**は慚（續は慙）憤して血を嘔き，是に由りて疾を發し，馬輿に乘りて而して進み，平城の西北三十里に頓す。太子の**寶**等は之を聞き，皆な引いて還る。燕軍の叛く者は魏に告げて云はく、

「**垂**は已に死し，屍（續は尸）を輿して軍に在り。」

魏王の**珪**は之を追わんと欲するも，平城の已に沒すと聞き，乃ち引いて阻山（續は陰山）に還る。

▲［慕容垂は帰途に卒し秘す］**垂**は平城に在り十日を積み，疾は轉(うたた)篤く，乃ち燕昌城（平城の北 40 里）を築きて而して還る。(6-317p)夏，四月（元嘉暦では５月），癸未（１０日），上谷之沮陽（直隸省口北道懐來県の東、現・北京市付近）で卒し（慕容垂は年 71），秘して喪を發せず。丙申（２３日），中山に至る。戊戌（２５日），喪を發し，謚して**成武皇帝**と曰い，廟號を**世祖**とす。壬寅（２９日），太子の**寶**（字は道祐、垂の第４子）は即位し，大赦し，改元して永康とす。

▲［慕容宝の新体制］五月（元嘉暦では６月），辛亥（９日），范陽王の**德**を以て都督冀、兗、青、徐、荊、豫六州諸軍事、車騎大將軍、冀州牧と為し，鄴に鎮ぜしむ。遼西王の**農**を都督并、雍、益、梁、秦、涼六州

諸軍事、并州牧と為し，晉陽に鎮ぜしむ。又た安定王の**庫辱官偉**を以て太師と為し，夫餘王の**蔚**(続による、燕王皝は扶余を破り、前燕に属し、前秦また後燕に属す)を太傅と為す。甲寅（１２日），趙王の**麟**を以て尚書左僕射を領ぜしめ，高陽王の**隆**をして右僕射を領ぜしめ，長樂公の**盛**を司隷校尉と為し，宜都王の**鳳**を冀州刺史と為す。

■乙卯（１３日），散騎常侍の彭城の**劉該**を以て徐州刺史と為し，鄄城に鎮ぜしむ。

■甲子（２２日），望蔡公の**謝琰**を以て尚書左僕射と為す。

【慕容宝は人望足りず】

▲［後の段后は慕容宝の器量足らずを言って自殺を強要される］初め，燕主の**垂**は先の**段后**（可足渾后の諱）は子の**令**、**寶**を生み，後の**段后**（別の后）は子の**朗**、**鑒**を生み，諸姫の子の**麟**、**農**、**隆**、**柔**、**熙**を愛す。**寶**は初め**太子**と為り，美稱（名誉）有り，已に而して荒怠にして，中外は失望す。後の**段后**は嘗て**垂**に言って曰く、

「**太子**は承平之世に遭えば，守成之主と為りて足らん。今國の歩みは艱難にして，濟世之才非ずを恐る。**遼西**、**高陽**の二王は，**陛下**之賢子，宜しく一人を擇びて，付するに大業を以てせん。趙王の**麟**は奸詐強愎なり，異日必らず國家之患いと為らん，宜しく早に之を圖るべし。」

寶は善く**垂**の左右に事え，左右は多いに之を譽める，故に**垂**は以て賢と為し，**段氏**に謂って曰く、

「汝は我に晉の**獻公**（驪姫の讒言を信じて太子申生を殺す）と為ら使めんと欲する乎？」

段氏は泣いて而して退き，其の妹の**范陽王妃**に告げて曰く、

「**太子**の才あらずは，天下の知る所，吾は社稷の為に之を言い，**主上**は乃ち吾を以て驪姫（晉の獻公）と為す，何ぞ其れ苦となる哉！**太子**を觀れば必らず社稷を喪う，**范陽王**は非常の器度有り，若し燕祚未だ盡きざれば，其れ王に在らん乎！」

寶及び**麟**は聞きて而して之を恨む。乙丑（２３日），**寶**は（続による）**麟**をして**段氏**に謂って曰は使める、

「**后**は常に**主上**の大業を守る能わずを謂う，今は竟に能くするや不や？宜しく早く自裁すべし，以て段宗を全くすべし！」

段氏は怒って曰く、

「汝兄弟は逼りて其の母を殺すは難からずや，況んや能く先業を守るを乎！吾は豈に死を愛しまんや，但だ國亡びるは久しからずを念う耳。」

遂に自殺す。**寶**は議して以って、

「**段后**は適統を廢せんと謀る，母后之道無く，喪を成すは宜しからず」，

群臣は咸な以て然りと為す。中書令の**眭邃**は朝に揚（続は颺）言して曰く、

「子は母を廢する之義無く，漢の**安恩閻后**は親ら**順帝**を廢する（50 巻漢安帝延光三年に見える）も，猶ほ太廟に配饗するを得る，況んや**先后**の曖昧之言は，虚實未だ知る可からず乎？」

乃ち喪を成す。

●六月（元嘉暦では閏６月），癸酉（１日），魏王の**珪**は將軍の**王建**等を遣わして燕の廣寧（続は廣甯、漢の上谷郡に属し、晋の太康中に分けて置く、直隷省ロ北道涿鹿県、現・張家口市涿鹿県）太守の**劉亢泥**を撃ち，之を斬り，(6-318p) 其の部落を平城に徙す。燕の上谷太守の開封公の**詳**は郡を棄てて走る。**詳**は，**虓**之曾孫也。

●丁亥（１５日），魏の**賀太妃**（拓跋珪の母）は卒す。

▲［燕は戸籍整備や私兵の禁止で抵抗に遭う］燕主の**寶**は士族の舊籍を定め，清濁を分辨し，戸口を校閲

し，軍營の封廕之戸（諸軍が庇護し隠す私兵・部曲）を罷め，悉く郡縣に屬す。是に由りて士民は嗟怨し，始めて離心有り。

後涼［後涼の呂光の天王即位］三河王の**呂光**（字は世明、略陽の氐、元苻堅に属する）は**天王**に即位し，國號を大涼とし，大赦し，改元して龍飛とす。備えて百官を置き，世子の**紹**を以て**太子**と無し，子弟を封じて公侯と為る者二十人，中書令の**王詳**を以て尚書左僕射と為し，著作郎の**段業**等五人を尚書と為す。

後涼［禿髪烏孤は後涼に称藩せず］**光**は使者を遣わして**禿髪烏孤**を拜して征南大將軍、益州牧、左賢王と為す。**烏孤**は使者に謂って曰く、

「**呂王**の諸子（纂・弘・紹・覆などが史にあり）は貪淫にして，三甥（甥の石聡は杜進を殺す）は暴虐なり，遠近は愁怨（続は愁苦）す，吾は安んぞ百姓之心と違い，不義之爵を受ける可けん乎？吾は當に**帝王**之事を為す耳。」

乃ち其の鼓吹、羽儀を留め，謝して而して之を遣る。

▲［高陽王の隆は平規を討伐］**平規**は餘黨を收合して高唐（山東省東臨道禹城県の西南、現・徳州市禹城市）に據り，燕主の**寶**は高陽王の**隆**を遣わして兵を將いて之を討たしむ。東土之民は，素より**隆**の惠を懐み，迎候する者は路に屬く。秋，七月，**隆**は進軍して河に臨み，**規**は高唐を棄てて走る。**隆**は建威將軍の**慕容進**等を遣わして河を濟って之を追い，**規**を濟北にて斬る。**平喜**は彭城に奔る。

■故中書令の**王獻**之女を納れて**太子**妃と為す。**獻之**は，**羲之**（王羲之は王導の從子）之子也。

●［魏王は尊号を称する］魏の群臣は魏王の**珪**（什翼犍の嫡孫、寔の子、104 巻にあり）に尊號を稱するを勸め，**珪**は始めて**天子**の旌旗を建て，出るに警し入るに蹕し，改元して皇始とす。參軍事の上谷の**張恂**は**珪**に進みて中原を取るを勸め，**珪**は之を善しとする。

▲［慕容農は并州に行く］燕の遼西王の**農**は悉く部曲數萬口を將いて并州に之き，并州は素より儲郎（続は侍に行人偏、糧食の貯蔵）に乏し。是の歳早く霜ふり，民は其の食を供する能わず。又た諸部の護軍を遣わして分けて諸胡を監し，是れに由りて民夷は俱に怨み，潛かに魏軍を召く。

【北魏は後燕に本格的侵攻】

●［魏王の珪は大舉して燕を伐つ］八月，己亥（２８日），魏王の**珪**は大舉して燕を伐つこと，步騎四十餘萬，南に馬邑に出で，句注を逾え，旌旗二千餘里，鼓行して而して進む。左將軍の雁門の**李栗**は五萬騎を將して前驅と為り，別に將軍（続、國×）の**封真**等を遣わして東道より軍都（関の名前、京兆昌平県、現・北京市昌平区）に出で，燕の幽州を襲わしむ。

▲［慕容宝は憃弱な太子を立てて、燕は不安定に］燕の征北大將軍、幽、平二州牧、清河公の**會**は、母は賤に而して年長なり，雄俊にして器藝有り，燕主の**垂**は之を愛す。**寶**之魏を伐つ也，**垂**は**會**に命じて東宮の事を攝せしめ、總錄（朝政を總錄する），禮遇は一に**太子**の如し。**垂**の魏を伐つに及び，**會**に命じて龍城に鎮ぜしめ，委ねるに東北之任を以てし，國官府佐は，皆な一時の才望を選ぶ。**垂**の疾は篤きに，(6-319p)遺言して**寶**に命じて**會**を以て嗣と為さしむ。而して**寶**は少子の濮陽公の**策**を愛し，意は**會**に在らず。長樂公の**盛**は**會**と同年なるに，之の下と為るを恥じる，乃ち趙王の**麟**と共に**寶**に**策**を立てるを勸め，**寶**は之に從う。乙亥（４日），妃の**段氏**を立てて**皇后**と為し，**策**を**皇太子**と為し，**會**、**盛**は皆な進爵して王と為る。**策**は年十一，素より憃弱（愚かで弱い）なり。**會**は之を聞き，心は慍懟（うらみつらみ）す。九月，章武王の**宙**は燕主（続。方×）**垂**及び**成哀段后**（寶が殺した後母段氏）之喪を奉じて龍城の宣平陵に葬す。**寶**は**宙**に詔して悉く高陽王の**隆**の參佐、部曲、家屬を徙して（続による）中山に還らしむ，**會**は詔に違え，多く部曲を留めて

遣らず。**宙**は年長じて屬は尊し，**會**は事ある毎に之を陵侮し，見る者は皆な其の異志有るを知る。

●［晉陽の慕容農は魏軍に敗れて中山に奔る］戊午（１８日），魏軍は陽曲（山西省冀寧道陽曲県、現・太原市陽曲県）に至り，西山に乘(のぼ)り，晉陽（現・太原市晉源区）に臨み，騎を遣わして城を環り大いに噪いで而して去る。燕の遼西王の**農**は出でて戰い，大敗し，奔りて晉陽に還り，司馬の**慕輿嵩**（前に、趙王麟を奉じて乱を企てたのとは別人らしい）は閉門して之を拒む。**農**は妻子と帥數千騎を將いて東に走り，魏の中領將軍（魏の置く官）の**長孫肥**は之を追い，潞川に及び，**農**の妻子を獲る。燕軍は盡く沒し，**農**は創を被り，獨り三騎と逃げて中山に歸る。

●［魏は始めて臺省を建て、占領地政策を進める］魏王の**珪**は遂に并州を取る。初めて台省を建て，刺史、太守、尚書郎以下の官を置き，悉く儒生を用いて之と為す。士大夫は軍門に詣る者（続は無し）は，少長と無く，皆な引き入れて存慰し，使人をして盡く言わ使め，少しく才用有るは，咸な擢敘を加える。己未（１９日），輔國將軍の**奚牧**を遣わして汾川に略地せしめ，燕の丹楊王の**買徳**及び離石（山西省冀寧道離石県、現・呂梁市離石区）の護軍の**高秀和**を獲る。中書侍郎の**張恂**等を以て諸郡の太守と為し，離散を招き撫し，農桑を勸め課す。

▲［燕は魏軍の迎撃態勢を議論］燕主の**寶**は魏軍の將に至るを聞き，東堂に於いて議し。中山の尹の**苻謨**（燕に降る事 106 巻 11 年にあり）は曰く、

「今魏の軍衆は強く，千里の遠く鬥(たたか)い，勝ちに乘りて氣は鋭なり。若し之を縱ちて平土に入ら使めば，敵す可からず，宜しく險を杜(ふさ)ぎて以て之を拒むべし。」

中書令の**眭邃**は曰く、

「魏は多く騎兵にして，往來は剽速，馬上に糧を繼（続は齎）ぎ，旬日を過ぎず。宜しく郡縣に令して民千家を聚めて一堡と為し，溝を深くし壘を高くし，野を清めて以て之を待つべし。彼は至りて掠する所無く，六旬を過ぎずして，食盡きて自ら退かん。」

尚書の**封懿**は曰く、

「今魏兵は數十萬，天下之勍敵(けいてき)也，民は堡を築くと雖も，以て自ら固めるに足らず，是れ兵及び糧を聚めて以て之を資(たす)ける也。且つ民心を動搖し，之に示すに弱きを以てするなり。關を阻して拒ぎ戰うに如かず，計之上也。」

趙王の**麟**は曰く、

「魏は今勝ちに乘りて氣は鋭にして，其の鋒は當たる可からず，宜しく中山を完守し，其の弊を待ちて而して之に乘るべし。」

是に於いて城を修し粟を積み，持久之備えを為し。遼西王の**農**に命じて出でて安喜（直隸省保定道定県、現・定州市）に屯せしめ，軍事の動靜は(6-320p)，悉く以て**麟**に委ねる。

【皇帝は貴人に殺される】

■［東晉皇帝は張貴人に謀殺される］**帝**は酒を嗜み，流れて內殿に連なり，醒めて治する（酔いが覚めてまともになること）は既に少なく，外人の進見を得ること罕(まれ)なり。**張貴人**は寵されること後宮に冠たり，後宮は皆な之を畏れる。庚申（２０日），**帝**は後宮と宴し，妓樂は盡く侍る。時に**貴人**は年は三十に近く，**帝**は之に戲れて曰く、

「汝はその年を以てせば亦た當に廢すべし矣，吾が意は更に少き者に屬す。」

貴人は潛かに怒り，夕に向かい，**帝**は醉い，清暑殿に寢ね，**貴人**は遍く宦者に酒を飲ませ，之を散遣し，

婢をして被を以て**帝**の面を蒙(おお)いて，之を弒せしめ，重く左右に賂して，云う、
「魘(えん)（睡眠中のうなされる）に因りて暴(にほか)に崩ず」。
時に**太子**は闇弱にして，會稽王の**道子**は昏荒し，遂に復た推問せず。**王國寶**は夜禁門を叩いて，入りて遺詔を為さんと欲し，侍中の**王爽**は之を拒みて，曰く、
「大行晏駕し，**皇太子**は未だ至らず，敢えて入る者は斬らん！」
國寶は乃ち止む。**爽**は，**恭**之弟也。辛酉（２１日），**太子**は**皇帝**に即位，大赦す。
■癸亥（２３日），有司は奏す、
「會稽王の**道子**は宜しく位を進めて太傅、揚州牧とし，黄鉞を假すべし。」
詔して内外の衆事動静は之に咨る。
■［安帝は王德文の介護にてやっと生きる］**安帝**は幼く而して不慧（白痴），口は言う能わず，寒暑饑飽に至るまで亦た辨ず能わず，飲食寢興は皆な己に出ずるに非ず。母の弟の琅邪の**王德文**は，性は恭謹にして，常に左右に侍り，之が為に節適（節制して適わしむ）し，始めて其の宜しきを得る。
■［王國寶と道子］初め，**王國寶**の黨は會稽王の**道子**に附き（105 巻八年にあり），驕縱して不法なり，屢々御史中丞の**褚粲**の糾する所と為る。**國寶**は齋を起こし，清暑殿に俾(ひと)し，**孝武帝**は甚だ之を惡む。**國寶**は懼れ，遂に更に媚(こび)を**帝**に求め而して**道子**を疏んじ，**帝**は復た之を寵昵(続、暱×)す。**道子**は大いに怒り，嘗て内省に於いて**國寶**を面責し，劍を以て之を擲(なげう)ち，舊好を盡きぬ矣。**帝**の崩ずるに及び，**國寶**は復た**道子**に事え，**王緒**と共に邪諂を為す。**道子**は更に之に惑い，倚りて心腹と為し，遂に朝權に參管し，威を内外に震い，並に時之疾(にく)む所と為る。
■［道子は王恭の排除に悩む］**王恭**は入りて山陵に赴き，毎に正色して直言し，**道子**は深く之を憚る。**恭**は朝を罷れて，歎じて曰く、
「榱（垂木）棟は新たなりと雖も，便ち黍離（周の大夫が宮室の荒廃して黍となるを見て離れた）之歎有り！」
緒は**國寶**を說き，**恭**が入朝するに因りて，**相王**に兵を伏して之を殺すを勸め，**國寶**は許さず。**道子**は内外を輯和せんと欲し，乃ち深く腹心を**恭**に布き，舊惡を除かんと冀う。而して**恭**は言が時政に及ぶ毎に，輒ち聲色を厲(はげ)ます。**道子**は**恭**の和協す可からざるを知り，遂に相い圖る之志有り。
■［王恭は國寶の排除に悩む］或は**恭**に勸めて、
「入朝するに因りて兵を以て**國寶**を誅せ」
恭は豫州刺史の**庾楷**の士馬の甚だ盛んにて，**國寶**に黨するを以て，之を憚り，敢えて發せず。**王珣**は**恭**に謂って曰く、
「**國寶**は終に禍亂を為すと雖も，之を要するに罪逆は未だ彰(あきら)かならず，今遽(にわか)に事に先んじて而して安（続は發）ずれば，必ず大きく朝野之望を失うべし。況んや強兵を擁し竊(ひそか)に京輦に發せば，誰か逆に非ずと謂うや！**國寶**若し遂に改めざれば，惡は天下に布し，然る後に衆心に順いて以て之を除けば，亦た濟さざるを憂うる無からん也。」
恭は乃ち止む。既に而して**珣**に謂って曰く、**(6-321p)**
「比來君を視るに一に**胡廣**に似たり」。（權姦の間に依違して以て祿位を保つ）
珣は曰く、
「**王陵**は廷爭し（以て位を失い），**陳平**は慎默す（以て遂によく劉を安んじる），但だ歳晏の何如を問う耳！」
■［孝武帝を隆平陵に葬す］冬，十月，甲申（１４日），**孝武帝**を隆平陵に葬す。**王恭**は鎮に還り，將に行かんとし，**道子**に謂って曰く、

「**主上**は諒暗にして，塚宰之任は，**伊**、**周**の難ずる所，願はくは**大王**は親ら萬幾し，直言を納れん。鄭聲を放ち，佞人を遠ざけよ。」
國寶等は愈々懼れる。

【魏と燕の中原攻防】

●［魏は中山攻略にいく］魏王の**珪**は冠軍將軍の代人の**於栗磾**、寧朔將軍の**公孫蘭**をして歩騎二萬を帥いて，潜かに晉陽より**韓信**の故道（韓信が趙討伐に通った道、排水の陣の語源）を開か使む。己酉（３９日?），**珪**は井陘（直隷省保定道井陘県、現・石家荘市井陘県）より中山に趨く。**李先**（昨年西燕より燕に降る）は魏に降り，**珪**は以て征東左長史と為す。

西秦西秦の涼州牧の**軻彈**と秦州牧の**益州**は平らかならず，**軻彈**は涼に奔る。

●［中山の守り堅く、鄴、信都に向かう］魏王の**珪**は常山（直隷省保定道曲陽県の西北、現・石家荘市、趙雲の出身地）に進攻し，之を抜き，太守の**苟延**を獲り，常山より以東は，守宰の或は走り或は降り，諸郡縣は皆な魏に附き，惟だ中山、鄴、信都の三城は燕の為に守る。十一月，**珪**は東平公の**儀**に命じて五萬騎を將して鄴（慕容徳が守る）を攻めしめ，冠軍將軍の**王建**、左將軍の**李栗**には信都（慕容鳳が守る）を攻めしむ。戊午（１９日），**珪**は中山に進軍す。己未（２０日），之を攻める。燕の高陽王の**隆**は南郭を守り，衆を帥いて力戰し，旦より晡に至り，殺傷すること數千人，魏兵は乃ち退く。**珪**は諸將に謂って曰く、
「中山の城は固く，**寶**は必ず肯えて出でて戰わず。急に攻めれば則ち士は傷つき，久しく圍めば則ち糧を費やす，先ず鄴、信都を取り，然る後に之を圖むに如かず。」
丁卯（２８日），**珪**は兵を引いて而して南す。

▲章武王の**寅**は龍城より還り，魏寇の有るを聞き，馳せて薊（現・北京市大興区）に入り，鎮北將軍の陽城の**王蘭**と與に城に乗りて固く守る。**蘭**は，**垂**之從弟也。魏の別將の**石河頭**は之を攻め，克たず，退きて漁陽（京兆密雲県の西南、現・北京市密雲県）に屯す。

●［魏は降人を人材登用して制度を整える］**珪**は魯口に軍し，博陵太守の**申永**は河南に奔り，高陽太守の**崔宏**は海渚（海中の洲）に奔る。**珪**は素より**宏**の名を聞き，吏を遣わして追い求めしめて，之を獲り，以て黄門侍郎と為し，給事黄門侍郎の**張袞**と與に機要を對掌せしめ，制度を創立せしむ。博陵令の**屈遵**は魏に降り，**珪**は中書令と為し，號令を出納し，兼ねて文誥を總ぜしむ。

▲［燕の鄴はよく守る］燕の范陽王の**德**は南安王の**青**等をして夜魏軍を鄴下に擊た使め，之を破り，魏軍は退きて新城（慕容垂が鄴を攻める時に築いた、河南省河北道臨漳県、現・邯鄲市臨漳県）に屯す。**青**等は之を追擊するを請い，別駕の**韓**［言卓］（一文字）に曰く、
「古人は先ず計りて而して後に戰う。魏軍は擊つ可からざる者は四あり。懸軍は遠く客たり，利は野戰に在り，一也。深く近畿に入り，兵を死地に頓む，二也。前鋒既に敗れ，後陣は方に固し，三也。彼は衆にして我は寡なり，四也。官軍は宜しく動かざる者は三あり。自ら其の地に戰う，一也。動きて而して勝たず，衆心は固くし難し，二也。城隍は未だ修まらず，敵來たれども備え無し，三也。今魏は資糧無し，壘を深くし軍を固め以て之を老れさすに如かず。」
德は之に從い，**青**を召いて還る。**青**は，**詳**之兄也。(6-322p)

●十二月，魏の遼西公の**賀賴盧**は騎二萬を帥いて東平公の**儀**に會して鄴を攻める。**賴盧**は，**訥**之弟也。

●［魏の沒根は燕に降り夜襲］魏の別部の大人の**沒根**は勇の膽有り，魏王の**珪**は之を惡む。**沒根**は誅を懼れ，己丑（２０日），親兵數十人を將いて燕に降り，燕主の**寶**は以て鎮東大將軍と為し，雁門公に封じる。

沒根は還りて魏を襲わんことを求め，**寶**は重兵を與えるを難しとし，百餘騎を給す。**沒根**は其の號令に效い，夜魏の營に入り，中仗に至り，**珪**は乃ち之を覺り，狼狽して驚き走る。**沒根**は從う所の人少なきを以て，其の大衆を壞る能わず，多く首虜を獲て而して還る。

■**楊盛**は遣使して來たりて命を請う。詔して**盛**を拜して鎮南將軍、仇池公とする。**盛**は**苻宣**を表して平北將軍と為す。

後秦是の歲，**越質詰歸**（西秦に降るは前巻 16 年にあり）は戶二萬を帥いて西秦に叛して秦に降り，秦人は之を成紀（天水郡、甘肅省渭川道泰安県の北、現・天水市秦安県）に處し，拜して鎮西將軍、平襄公とする。

後秦［後秦は上邽を取る］秦の隴西の**王碩德**は**姜乳**を上邽に攻め，**乳**は衆を帥いて降る。秦は**碩德**を以て秦州牧と為し，上邽に鎮ぜしむ。**乳**を征（續は徵）して尚書と為す。**強熙**、**權千成**は衆三萬を帥いて共に上邽を圍み，**碩德**は擊ちて之を破り，**熙**は仇池に奔り，遂に來奔す。**碩德**は西に**千成**を略陽に擊つ（續、去×），**千成**は降る。

後秦［後秦は河東に勢力拡大］西燕は既に亡び，其の署する所の河東太守の**柳恭**等は各々兵を擁して自ら守る。秦主の**興**は晉王の**緒**を遣わして之を攻め，**恭**等は河に臨みて拒み守り，**緒**は濟るを得ず。初め，永嘉之亂にて，汾陰の**薛氏**は其の族黨を聚め，河を阻てて自ら固め，**劉**、**石**に仕えず。**苻氏**の興るに及び，乃ち禮を以て**薛強**を聘し，鎮東將軍に拜す。**強**は秦の兵を引きて龍門より濟り，遂に蒲阪に入り，**恭**等は皆な降る。**興**は**緒**を以て并、冀二州牧と為し，蒲阪に鎮ぜしむ。

令和 2 年 7 月 6 日　　完訳開始　　12045 文字
令和 2 年 7 月 10 日　　完訳終了　　23183 文字
令和 2 年 11 月 4 日　　修正　　23385 文字　年表・地名
令和 3 年 12 月 22 日　　書下し終了　　25109 文字